

2017年度（第14期）事業計画書（案）

（2017年4月1日から2018年3月31日まで）

特定非営利活動法人 アーシャ＝アジアの農民と歩む会

2017年度 事業実施の方針

2017年度の事業実施方針は以下のとおりである。

北インド・ウッタラプラデシュ州アラハバード県にあるサムヒギンボトム農工科学大学マキノスクールを中心に、農村におけるリーダー育成、貧困家庭の子どもの教育、農村の栄養・母子保健改善のための支援、そして、農村住民の自立のための有機農業組合活動と手工芸事業、所得向上支援活動に取り組んでいくことを基本方針とする。これらの支援を行うために、国内事務局スタッフ2名、現地事務所に日本人スタッフ2名、専門家、インターン2名、ボランティアを派遣し、必要業務を遂行する。

大型受託事業である JICA 草の根技術協力事業が今年12月末で終了する。活動の継続性、発展性を考慮し、次期大型事業を JICA または外務省等へ申請する。同時に、現地での活動が持続可能な事業になるように、現地活動の経済的自立化を推進する。

また、現地での活動がより一般市民に理解できるような広報活動を求められている。今後、学生や一般市民がインドや他のアジアアフリカ諸国の諸問題に関心が持てるようなセミナーや講演会、またインドスタディーツアーを企画実施できるよう努力する。そのためにも、理事、スタッフは情報、募集、ネットワークを共有し、協働でその任に当たる。今年度いっぱい JICA 草の根技術協力事業からの受託事業（政府保健機関スタッフと農村保健ボランティアの協働による統合的母子保健事業）が供与されている。さらに、日本国際協力システム（JICS）や、大阪コミュニティ財団から助成金が供与されているので、それらの関連事業を実施する。

上記の項目を今年度においての基本計画針とする。

I. 特定非営利活動に係る事業

1. 農村開発・農業開発支援事業

持続可能な農業・農村開発・収入向上事業

(1) 貧困農民のための収入向上活動事業

有機野菜、日本米、キノコ、加工食品(特に、味噌、醤油、食肉加工品、漬物、乾燥キノコ、乾燥モリंगा)の質の向上と販路拡大のための協力をを行う。

(2) 若い人材の育成と総合的な農村開発の推進

若い農村住民の人材を発掘し、草の根リーダーの可能性を持った人材育成を行う。また、育成された人材が統合的農村開発の役割を果たすことができるように、派遣された現地スタッフ及び専門家は技術協力、助言を行う。今年度の活動対象地域は昨年同様、アラハバード県内の3つの郡、即ちジャスラ郡、コンディアラ郡、シャンカルガル郡を中心に行い、さらに北東インドや他の地域から要望がある場合、それに加える。また、農村・農業開発に興味のある者を学生、または研修生として受け入れる。

今年度もマキノスクールにおいて実施される「食の祭典(Food Fair)」及び村での収穫感謝祭の実施支援を行う。

(3) アーシャ農村学校及び持続可能な農村開発研修センターの効果的な活用

「持続可能な農村開発研修センター(マキノスクールの3階)」、本会とJICAの支援によって建てられたアラハバード県内の農村4カ所に設立されたアーシャ農村学校、及びジャスラ郡のマエダフィールド事務所を多目的に活用できるように、協力、助言活動をする。活用内容は、アーシャ学校教師の合同月例会議、有機農業の普及、農村住民リーダー育成、母子保健活動、子どもの教育、農村女性の為の技術訓練等を計画する。

2. 人材育成支援事業

2-1. 持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上

当コースはアジアの農村で献身的に働く農村リーダーを養成することを目的にしている。今年度は、インド人の他に、日本人2名を含む5名の新入生を予定している。そのうち、1名は聾啞の青年で、コミュニケーションに問題があるが、マキノスクール全員の協力の下、彼が研修を全うできるよう、努力する。

2-2. 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業

(1) アーシャ学校(3村、3校・児童500名)の運営と教育改善のための支援

児童に対する保健教育を中心に、環境教育、農業教育、美術教育などを特別学習プログラムとして支援する。これらの活動は大阪コミュニティ財団からの助成金により実施される。このいくつかはマキノスクールのセンターで宿泊学習として実施する。

(2) アーシャ学校教師の研修支援

アーシャ学校教師が教師としての資質を向上できるように、マキノスクールで年1~2回教師のセミナーを実施する。

(3) アーシャ学校の基盤整備支援

必要に応じて、風雨等で壊れた校舎の屋根、床等の修理改善の支援をする。

(4) アーシャ学校の生徒に対する奨学金寄与

アーシャ学校の授業料は他の私立学校に比べ低く設定されている。授業料を高く設定すると学校に来られなくなる貧困家庭の生徒が多い。貧困家庭の生徒に奨学金を提供することによって、教師はある程度の収入を確保することができる。教師が生徒に教えるだけでなく、生徒のリクルートから自立的な学校運営まで行うことができるという認識を高めるためである。

(5) アーシャ学校建設の募金

アーシャ学校マイダ校は定員60名を予定していたが、現在その2倍の生徒が在籍し、教室の拡張、プレイグラウンドの確保が困難になっているため、マイダ校校長の私有地に移転することが要望されている。その建設に約100万円の募金活動を行う。尚、現在のマイダ校は組合員が生産する有機米の精米所、また各活動グループ(VHV、組合活動、アーシャ学校教師会、裁縫教室等)の活動に使われる計画である。募金活動に関する立案は川口理事、国内事務所が行う。

2-3. 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

農村女性の収入向上のための事業として、昨年同様、2か所のアーシャ農村学校で行われる基礎裁縫クラス(基礎コース4月から3か月間、実践コース3か月間)の研修を支援する。コース修了後、優秀な研修生に対して上級手芸コース(2か月程度)の支援を、奨学金支給や技術・管理指導を通して行う。上級コースでは小物入れ、トートバック、エプロン、聖書入れ等を販売用として製作できるよう支援する。今年度は、日本国際協力システム(JICS)の助成金により、日本から竹内あさみ専門家を招聘し約3週間に渡り、デザイン開発・商品開発を行う。さらに、7月から日本人インターンを派遣し、製作過程の効率化、品質改善を図る計画である。

2-4. 農村保健衛生改善支援事業

2017年12月でJICAの農村母子保健関連委託事業が終了する。終了する前に、農村保健ボランティア(VHV)が中心となって設立した、NGOのAVSS(Asha Vikas Sewa Samiti)が継続的な農村改善活動ができるように支援する。また、終了前の11月に最終評価会をアラハバード県の医療関係者、日本から医療と栄養の専門家を招き、セミナー形式の評価会を開催する。

3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業

3-1. ワークキャンプ・スタディーツアー開催、訪問者受入

スタディーツアー開催（アーシャ・公益社団法人全国愛農会・インド三浦後援会・マキノスクール共催）

2017年9月：大学生中心。（現在酪農学園大学からの問い合わせがある。）

2018年3月（11日間程度）：内容は中西理事が中心となって企画。

3-2. 会報の発行

アーシャの活動、サムヒギンボトム農工科学大学マキノスクールのプロジェクトの活動を会員、支援者に理解していただくために年4回アーシャの機関紙を発行する。

3-3. ホームページ等での広報

ホームページ、ブログ、Facebook、広報の充実を図り、より広く当会の活動を知ってもらい、当会の認知度向上、会員増強を狙う。

3-4. 日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

セミナー、講演、研修会、ワークショップ、交流会、絵画展 開催予定

現時点において計画されている時期と場所については以下の通りである。

- 4月14日 仙台市イズミティ21にて「VHVによる緊急支援活動報告」報告者：三浦孝子
- 4月27日 生協総合研究所にてアジア生協協力基金成果報告会 報告者：三浦孝子
- 6月4日 鶴川教会にてインドプロジェクト報告会 報告者：三浦照男
- 6月5日 とわの森三愛高校にてインドプロジェクト報告会 報告者：三浦照男
- 6月6日 酪農学園大学にてインドプロジェクト報告会 報告者：三浦照男
- 6月11日 荘内教会及び荘内教会保育園において報告会 報告者：三浦照男
- 6月18日 田園調布教会にてインドプロジェクト報告会 報告者：三浦照男
- 12月 いわき市にてインドプロジェクト報告会 報告者：三浦照男
- 1月 スタディーツアー参加者に対する事前学習会 講師：中西泉
- 2月 那須塩原市にて活動報告セミナー&インドカレークッキング教室 講師：三浦孝子
- 3月 スタディーツアーの事後報告会 講師：中西泉
- 絵画展、写真展、映写会等 開催地・開催時期未定

3-5. 次期事業形成調査

(1) 本会理事であり、現地事業総責任者である三浦が JICA の関係者と次期 JPP の協議を始めている。

また、5月中旬から6月下旬にかけて、上記報告会もかねて、東京、北海道、山形、愛知、三重等に行き、本会関係者や支援者と会い、今後の連携方針について話し合いを持ち、次期事業形成のための調査、協力体制の連携強化を図る。

(2) 今年度より企業の CSR 活動へのアプローチ、企業からの寄付募集の活動を行う。この活動については、山下逸喜理事に担当になっていただき、国内事務所、アラハバード事務所と協働しながら作業

を進める。

4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業

未定である。

II. その他の事業

1. バザー・チャリティ・販売事業

栃木県内にて、地域のバザー等に出店し、当会の活動の認知度向上、AOAC・AVSS商品の広報・販売を行う。

2013年度より開始した収入向上支援、調査、販売、新製品開発収入向上事業推進のためのマーケット開発、販売活動を継続する。(大浦理事、三浦孝子代表理事、平野インターン、會田担当)

現地派遣スタッフはアラハバード有機農業組合、AVSSの製品の販売を促進するために製品開発支援、マーケット開発を行う。

国内スタッフは、収入向上支援のためアラハバードで生産、加工された岩塩、モリンガ(ワサビの木)葉のパウダー、及び農村女性が作った手工芸品の販売支援を行う。今年度はインターネットによる通信販売を開始できるよう、準備を進める。

2. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

国際交流・会の活動PRのため、アーシャ学校児童の絵画展を開催する。

Ⅲ. その他

2017年度の人事は以下のように計画する。

(1) アーシャスタッフ及び役割

- ①三浦 照男：プロジェクト総責任者。
- ②川口 景子：2017年4月より1年間の契約でインドに派遣。今年度も現地常駐スタッフとしてプロジェクト形成、インドプロジェクト総務及び会計主任として雇用。奨学金担当理事。
- ③林 神志郎：2016年7月より2年間の契約でインドに派遣中。現地調査、研修事業、プロジェクト形成、学部長補佐等。
- ④平野 伸吾：2016年7月よりインターンとして2年間の契約で現地派遣中。主に、マーケティング開発、食品加工、及び会計補佐。
- ④ 三浦 孝子(母子保健専門家)：インドに派遣し、技術指導、助言活動。アーシャ総責任者。
- ⑤ 會田 るり子(国内事務局)：会員管理、収入向上事業、マーケティング、収益事業。
- ⑥ 漆原 雅子(国内事務局)：総務事務、会計。

派遣されたスタッフ、専門家は、それらの活動の成果を、日本において市民向けのセミナーや講演会などを通じて、開発教育、市民教育、国際協力等の活動に活用する。本会の運営を強化するために、会員の募集、支援金の確保に努める。

(2) アーシャ理事及び役割 (案)

- ①山下 逸喜：広報、CSR、国内外マーケティング。
- ②中西 泉：インドスタディーツアー企画、アーシャ手工芸品販売近畿担当。
- ③大浦 智子：イベント、アーシャ手工芸品販売栃木担当。
- ④佐藤 耕士：広報、HP、イベント、アーシャ手工芸品販売福島担当。
- ⑤高丸 和彦：研修受け入れ、イベント、アーシャ手工芸品販売九州担当。
- ⑥石原 潔：研修受け入れ、イベント、アーシャ手工芸品販売中部担当。
- ⑦町上 貴也：広報、イベント、アーシャ手工芸品販売名古屋担当。
- ⑧川口 景子：海外事務局、農村女性とアーシャ学校のための奨学金及び募金担当。
- ⑨及川 洋征：プロジェクト形成アドバイザー担当。(理事就任予定。)
- ⑩村上 健：組織運営アドバイザー担当。(理事就任予定。)
- ⑪三浦 照男：新プロジェクト形成、インドプロジェクト監督。
- ⑫三浦 孝子：国内事務局、アーシャ組織運営。

IV. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1. 農村開発・農業開発支援事業	持続可能な農業・農村開発・収入向上事業	通年	インド・アラハバード地区	3名	インド・アラハバード地区30万人の農村住民	340
2. 人材育成支援事業	①持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上	通年	インド・アラハバード地区	3名	研修生5名および研修生の活動地(インド メガラヤ州、マニプール州、日本)の農村住民各1,000名	710
	②僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業	通年	インド・アラハバード地区	2名	インド・アラハバード地区 550名	1,705
	③裁縫学校の新規開設・運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援	通年	インド・アラハバード地区	2名	インド・アラハバード地区 1,000名	1,294
	④健康栄養・農村母子保健の事業支援	12月まで	インド・アラハバード地区	4名	インド・アラハバード地区 60万人の農村住民	16,806
3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業	①ワークキャンプの開催・研修ツアー(2回)・訪問者受入	随時	日本	7名	日本国内 300名	320
	②会報の発行	年4回	日本・インド・米国	7名	日本国内、インド・米国 述べ約1,000名	130
	③次期事業形成調査	随時	日本・インド	2名	日本、インド	100
4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業	緊急支援活動事業	随時	日本・インド	7名	日本国内	100
						21,505

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
1. バザー・チャリティ・販売事業	バザー出店、収入向上支援、調査、販売、新製品開発	随時	日本・インド	7名	235
2. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業	絵画展実施	随時	日本	3名	40